

[横浜美術館]

平成30年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業

を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標

を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

本年度は、多くの来場者のあったモネ展や当館コレクション展の国内巡回を通じて、当館の存在感を発揮しつつ、来年度の30周年記念事業と、再来年度の大規模改修に向けた準備を着実に行いました。

コレクションの発信については、国内では、今夏に高知市と前橋市で国内初の展覧会として当館のコレクションを展示することができ、当館コレクションの魅力を他地域に発信できたことには大きな意義がありました。そして、海外では、2019年に、当館写真コレクション展がカナダで開催される見込みです。

教育プログラムについても、モネ展に合わせて、専門家によるトーク、出品作家によるトークとワークショップ、小学生とその親向け、中高生と小学生向けのワークショップなどを提供し、当館の多機能性を活かして、様々な来場者に多様な角度から展覧会の理解を深めていただきました。

30周年記念事業については、展覧会を始め各種事業の準備を全館体制ですすめました。そして、大規模改修に向けては、コレクション撮影と公開、美術情報センター所蔵の映像資料デジタル化、子どものアトリエのプログラム見直し、ビジターサービス拡充、ファンドレイジングの見直し、大規模改修実施計画に向けた事業検討を計画的に行いました。

(2) 30年度の業務の方針及び達成目標の総括

①「経営」の総括

◇横浜トリエンナーレ

- ・ヨコハマトリエンナーレ2017の経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題を検証し、来年度の横浜美術館30周年に向けて将来のあるべき姿を描くため、劇作家、キュレーター、建築家、アーティストを招き、「展示／鑑賞」、「キュレーション」、「建築」をテーマにした「美術館と国際展を巡る連続講座」を2-3月に3回開催しました。

◇海外への発信

- ・海外巡回については、巡回先が見つからず難航しておりましたが、IEO大会(International Exhibitions Organizers Conference)に参加し、当館写真コレクション展のカナダへの巡回展(会場:ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ(オタワ)、会期:2019年10月11日~2020年3月22日)の契約を締結しました。
- ・海外インターンについては、国立民族学博物館とJICAに協力し、10月に海外からのインターン生を受入れました。なお、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを本年度構築する予定でしたが、上述の海外巡回展に注力するため、改めて実施するかどうか、大規模改修中に検討します。

◇広報

- ・露出件数、ウェブサイトアクセス数、メールマガジン登録数は目標を上回りましたが、Twitterは目標に達しませんでした。Twitterの目標人数が前年度から上がっている一方、Twitterユーザー数の伸びの鈍化による影響が原因と考えています。
- ・全館広報として、来年度の30周年記念事業のウェブサイトを年度内に公開する予定でしたが、開館30周年事業、大規模改修など特別事業が重なり、来年度4月初旬に公開します。来年度は、計画的な業務分担を行い、達成できるよう努めます。

◇外部との連携

- ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。

② 事業の総括

◇企画展

- ・企画展合計の目標27万人に対し、実績は402,425人(149%)と、目標を上回りました。
- ・ヌード展は、英国テートの収蔵作品でヌードの歴史と表現の変遷を辿った、東アジア・パシフィック国際巡回展でした。ヌードという西洋美術の根本的な問題に取り組む挑戦的な展覧会に参加することで、当館の存在を国際的に示し、テートとの関係を構築することができました。新聞各紙の展評に取り上げられるなど話題になりましたが、目標を下回る来場者数でした。「ヌード」というテーマが一般になじみにくく、団体鑑賞も少なかったことに原因があったと考えています。今後、内容が難しい展覧会では、誘客のために展覧会タイトルに更なる工夫が必要と考えています。
- ・モネ展は、モネの作品と後世の作家による作品を対比的に展示し、継承されたモネの革新性と現代美術との結びつきに改めて焦点をあてました。メディアとの共催展でしたが、名古屋市美術館と当館の2会場巡回展で、両館の学芸員が構成から出品内容まで作り上げました。目標の二倍の来場者数となり、モネの高い人気と、前会場での展示があり事前告知が行き届いていたこと等がその原因と考えられます。また、読売新聞の回顧2018において、葛谷紀子氏により展覧会ベスト4に選出され、美術関係者からも評価を得ました。
- ・秋の駒井展と冬のノグチと長谷川展は、当館所蔵作家に焦点をあてた展覧会でした。駒井展は、学芸員が日頃の研究調査をもとに企画した独自展で、朝日新聞の回顧2018において、同時代の多様なジャンルの芸術家との関係性

の中に作家を位置づけた回顧展として取り上げられました。

- ・ノグチ長谷川展は、ニューヨークのイサム・ノグチ財団とサンフランシスコのアジア美術館との共同企画による国際巡回展です。当館の学芸員が海外の研究者と交流し、国際的な存在感を発揮しました。無料開館日を設けるなど多くの人が来場しやすいよう努めましたが、来場者は目標を下回りました。
- ・若手作家支援(NAP)では、初めて詩人を取り上げ、美術館における詩のインスタレーションという意欲的な展示を行いました。美術情報センターを会場として活用するなど新しい試みを行いました。文学関係者や美術関係者の注目を集め、詩人のファンも大勢訪れ、目標を上回る来場者数となりました。

◇コレクション

- ・コレクション展合計の目標 28.29 万人に対し、実績は 423,228 人 (150%) と、目標を上回りました。
- ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今夏に高知県立美術館とアーツ前橋で開催することができました。当館コレクションを展覧会として他館で展示したのは国内では初めてのことであり、当館の魅力を他地域に発信できたことは大きな成果と考えています。
- ・そして、コレクション作品画像は、5月に1,700点分がウェブサイトのコレクション検索ページで公開されました。大規模改修が予定されている中期Ⅲ期に、画像未公開作品の撮影・公開準備等を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。

◇美術情報センター

- ・美術情報センターでは、目標人数が前年度から上がったこともあり、「図書館総合展」会期中の11月1日(木)に美術情報センターのみ開室する、市民のアトリエと共同で講座を開催する、NAPの会場の一つとなるなど、新しい試みを行った結果、目標の来場者数に達することができました。
- ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期に、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。

◇教育プログラム

- ・教育プログラムでは、本年度最大の来場者数を見込んでいたモネ展に合わせて、作家と社会の関係性を考察する専門家の講演、若手の出品作家によるアーティストトーク、出品作家による写真ワークショップ、小学生の親子を対象としたワークショップ、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムなどを提供し、当館の多機能性を活かしながら、様々な来場者に多様な角度から展覧会の理解を深めていただきました。
- ・コレクションに関する鑑賞教育については、エドゥケーター、学芸員、アーティストによるトークでコレクションへの理解を深めていただくと同時に、特別支援学校、中学校の教師など多様な来場者に向けた個別のプログラムを提供しました。ボランティアによる活動については、秋に、みなとみらいホールふれあいコンサート前後の美術館体験ツアーを行い、冬には、ノグチ長谷川展で、日本語と英語のトークを開催しました。
- ・子どものアトリエでは、パーカッションやヨコハマトリエンナーレ2014出品作家による2講座を実施し、アーティストとの連携を深めています。なお、来場者数が目標に達しなかった要因としては、フリーゾーンの予約後のキャンセルが多いこと、少子化に伴う学校プログラムの一回あたりの参加人数が減少していることがあげられます。今後、事前申込制の利点である安全性と利便性を担保しつつ、キャンセル率の予測精度をできる限り向上させたいと考えています。
- ・市民のアトリエでは、本年度はすべての企画展と連携し、デッサン、写真、版画、拓本の講座を実施しています。また、写真家が自分以外の写真家の写真集について美術情報センターで語るという、今までにない講座も開催しており、著名アーティストとの連携が定着してきています。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

- ・ボランティアについては、来年度から鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとを統合し、ボランティアの方がより美術館活動に参画しやすい環境を調べ、一層の活性化を目指します。
- ・アウトリーチでは、従来より引き続き、病院、高齢者施設でのアウトリーチを行い、また、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。
- ・人材育成については、博物館実習で8人を受入れました。

③ 運営管理の総括

◇ビジターサービス

- ・委託会社契約に質向上に関する項目追加を継続し、顧客サービス員の質向上を図り、首都圏や近隣就業者を狙った企画展毎の夜間開館の継続実施等を通じ、多様な来館者にお越しいただけるよう工夫しています。
- ・本年度もカフェイルミネーション、お正月装花など、季節にあわせた心地よい空間を作り上げました。
- ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の中に、サイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールの検証を実施しました。

◇適正な施設管理

- ・大規模改修実施計画に向けた事業検討を1月に開始しました。
- ・中期Ⅲ期の初年度の開館30周年事業については、展覧会、シンポジウム、記念誌、式典、グッズ製作など計画的に進めています。

◇自主財源の獲得

- ・企業連携プログラム Heart to Art については、4社増となり、9社と契約し、目標を達成しています。
- ・そして、30周年に向けた個人向け寄付のため、昨年度調査した結果、費用対効果を鑑み、従来の法人向け協賛制度を用いた活動に注力することを決定しました。今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討していきます。

◇収支

- ・モネ展の有料入場者数増等により収入増となりました。収益を、来館者用の備品更新や作品保全費等にあて、収支としては、約6,500万円の黒字となりました。

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・新たに、新設する国際グループが中心となり、過去2回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ2017の経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題を検証し、来年度の横浜美術館30周年に向けて将来のあるべき姿を描くため、劇作家、キュレーター、建築家、アーティストを招き、「展示／鑑賞」、「キュレーション」、「建築」をテーマにした「美術館と国際展を巡る連続講座」を2-3月に3回開催しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ 2020に向けた準備</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□平成30年4-6月 プレシンポジウム 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】3回/年 ・2/10, 20, 3/2</p>

(2) 海外への発信 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・新たに新設する国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外巡回については、巡回先が見つからず難航しておりましたが、IEO大会(International Exhibitions Organizers Conference)に参加し、当館写真コレクション展のカナダへの巡回展(会場：ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ(オタワ)、会期：2019年10月11日～2020年3月22日)の契約を締結しました。 ・海外インターンについては、国立民族学博物館とJICAに協力し、10月に海外からのインターン生を受入れました。なお、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを本年度構築する予定でしたが、上述の海外巡回展に注力するため、改めて実施するかどうか、大規模改修中に検討します。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●コレクションパッケージ展 あるいは企画展の海外巡回</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】来年度実施 ・3月 カナダへの巡回展契約締結(会場：ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ(オタワ)、会期：2019年10月11日～2020年3月22日、当館写真コレクション展)</p>
<p>●海外インターン受入</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】1回/年</p>

●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	<input type="checkbox"/> 1回/展	・10/22 受入実施 (JICA・民博) 【達成】1回/展
●日英での紀要の発行	<input type="checkbox"/> 1回/年	・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記 【達成】1回/年
●外国人団体向けボランティア・トーク	<input type="checkbox"/> 1回/年	・3/31 発行 (サマリーを日英併記) 【達成】1回/年 (再掲) ・鑑賞教育ボランティアによるトークで実施
●日英での展覧会プレスリリース作成	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展
●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展
●海外VIPへの展覧会招待状送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】1回/展
●海外来館者の把握	<input type="checkbox"/> 通年	【達成】通年 (H28.4以降継続実施)

(3) 広報

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・新たに、首都圏に向けた広報に力を入れます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露出件数、ウェブサイトアクセス数、メールマガジン登録数は目標を上回りましたが、Twitterは目標に達しませんでした。Twitterの目標人数が前年度から上がっている一方、Twitterユーザー数の伸びの鈍化による影響が原因と考えています。 ・全館広報として、来年度の30周年記念事業のウェブサイトを年度内に公開する予定でしたが、開館30周年事業、大規模改修など特別事業が重なり、来年度4月初旬に公開します。来年度は、計画的な業務分担を行い、達成できるよう努めます。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●展覧会および全館広報などの通常業務</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>露出件数 700件/年</p> <p><input type="checkbox"/>ウェブサイトアクセス数 4,700,000</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <p>【達成】2,765件/年</p> <p>【達成】6,304,321件/年</p>

<p>●首都圏広報</p>	<p>件/年</p> <p><input type="checkbox"/>メールマガジン登録数 500 人増/年</p> <p><input type="checkbox"/>Twitter フォロワー数 4,000 人増/年</p> <p><input type="checkbox"/>ウェブを活用した全館広報 1 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>首都圏と横浜の各々に焦点をあてた 広報 1 回/展</p>	<p>【達成】1,364 人増/年</p> <p>【未達成】2,953 人増/年</p> <p>【未達成】来年度実施</p> <p>・来年度 4 月 30 周年ウェブサイト公開</p> <p>【達成】1 回/展</p> <p>・スード：東京芸大美術館相互割引（首都圏）、崎陽軒ウォーカー（横浜）</p> <p>・モネ：東急線駅構内売店「toks（トークス）」38 店舗でチケット販売（首都圏）、崎陽軒ウォーカー（横浜）</p> <p>・駒井：資生堂社員割引（首都圏）、崎陽軒ウォーカー（横浜）</p> <p>・ノグチ長谷川：読売新聞割引（首都圏）、三菱レジデンス居住者割引（横浜）</p>
---------------	---	--

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・新たに、美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>4 回以上/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】5 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/5 スード展「談ス/NUDE」[横浜赤レンガ倉庫 1 号館連携] ・9/7 モネ展コンサート[横浜みなとみらいホール連携] ・9/15-17 イメージフォーラム・フェスティバル[イメージフォーラム連携] ・11/24 クラシック・ヨコハマ[市連携] ・3/16 神奈川県ライトセンター講座[神奈川県ライトセンター連携]

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます』

(1) 企画展

[目指す成果／アウトカム]

発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、

- ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。
- ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。
- ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。

[成果についての振り返り]

- ・企画展合計の目標 27 万人に対し、実績は 402,425 人（149%）と、目標を上回りました。
- ・ヌード展は、英国テートの収蔵作品でヌードの歴史と表現の変遷を辿った、東アジア・パシフィック国際巡回展でした。ヌードという西洋美術の根本的な問題に取り組む挑戦的な展覧会に参加することで、当館の存在を国際的に示し、テートとの関係を構築することができました。新聞各紙の展評に取り上げられるなど話題になりましたが、目標を下回る来場者数でした。「ヌード」というテーマが一般になじみにくく、団体鑑賞も少なかったことに原因があったと考えています。今後、内容が難しい展覧会では、誘客のために展覧会タイトルに更なる工夫が必要と考えています。
- ・モネ展は、モネの作品と後世の作家による作品を対比的に展示し、継承されたモネの革新性と現代美術との結びつきに改めて焦点をあてました。メディアとの共催展でしたが、名古屋市美術館と当館の2会場巡回展で、両館の学芸員が構成から出品内容まで作り上げました。目標の二倍の来場者数となり、モネの高い人気と、前会場での展示があり事前告知が行き届いていたこと等がその原因と考えられます。また、読売新聞の回顧 2018 において、蔦谷紀子氏により展覧会ベスト4に選出され、美術関係者からも評価を得ました。
- ・秋の駒井展と冬のノグチと長谷川展は、当館所蔵作家に焦点をあてた展覧会でした。駒井展は、学芸員が日頃の研究調査をもとに企画した独自展で、朝日新聞の回顧 2018 において、同時代の多様なジャンルの芸術家との関係性の中に作家を位置づけた回顧展として取り上げられました。
- ・ノグチ長谷川展は、ニューヨークのイサム・ノグチ財団とサンフランシスコのアジア美術館との共同企画による国際巡回展です。当館の学芸員が海外の研究者と交流し、国際的な存在感を発揮しました。無料開館日を設けるなど多くの人が来場しやすいよう努めましたが、来場者は目標を下回りました。独自企画展のため広報予算が少なく、地元メディアに名義共催を依頼しましたが、影響力が弱かったことに原因があったと考えています。今後、独自企画展においても広報の工夫が必要と考えています。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●ヌード NUDE —英国テート・コレクションより【会期：3月24日-6月24日・80日間】</p> <p>近現代美術の殿堂として知られる英国テート・コレクション</p>	<p>□入場者数 100,000 人（1,250 人/日）</p>	<p>【未達成】 88,814 人（1,110 人/日）</p>

<p>より、19世紀後半ヴィクトリア朝神話画から現代の身体表現に至る優れた作品を借用し、西洋美術の200年にわたる裸体表現の歴史を辿る。</p> <p>●モネ それからの100年【会期：7月14日-9月24日・64日間】</p> <p>西洋近代絵画を代表するクロード・モネの初期から晩年までの絵画と、その絵画に認められる諸特徴を引き継ぐ現代の芸術家たちの作品群とで構成。モネの芸術の先駆性、革新性を明らかにするとともに、以降のアートに及ぼした広範な影響を検証する。</p>	<p>□入場者数 120,000人（1,875人/日）</p>	<p>【達成】 260,375人（4,068人/日）</p>
<p>●駒井哲郎一煌めく紙上の宇宙 ルドンを愛した銅版画のパイオニアとその時代【会期：10月13日-12月16日・56日間】</p> <p>駒井哲郎は日本における銅版画の先駆者であり、その作品には精神の内奥を表す文学性の高い世界が刻み込まれている。本展では、詩人や同時代作家との関わりに焦点を当てながら、駒井の深淵な詩的世界の魅力を紹介する。</p>	<p>□入場者数 20,000人（357人/日）</p>	<p>【達成】 28,298人（505人/日）</p>
<p>●イサム・ノグチと長谷川三郎 一変わるものと変わらざるもの【会期：1月12日-3月24日・62日間】</p> <p>彫刻家イサム・ノグチと、画家長谷川三郎の作品（彫刻、絵画、写真、素描等）約90点により、</p>	<p>□入場者数 30,000人（492人/日）</p>	<p>【未達成】 24,938人（402人/日）</p>

<p>二人が出会った 1950 年代を中心に、両者の共通の関心事である前衛美術と日本古来の文化との融合がいかに探求され、実現されたのかを明らかにする。</p>		
---	--	--

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果／アウトカム] 有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取組むと同時に、展覧会后 5 年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り] ・若手作家支援(NAP)では、初めて詩人を取り上げ、美術館における詩のインスタレーションという意欲的な展示を行いました。美術情報センターを会場として活用するなど新しい試みを行いました。文学関係者や美術関係者の注目を集め、詩人のファンも大勢訪れ、目標を上回る来場者数となりました。</p>		
<p>[取組内容] ●New Artist Picks</p>	<p>[達成指標] <input type="checkbox"/>開催 1 回/年 <input type="checkbox"/>入場者数 3,000 人(メイン会場) <input type="checkbox"/>展覧会后 5 年間の作家の活動を把握 1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況] 【達成】 1 回/年 ・2/23-3/24 最果タヒ展 【達成】 10,352 人(メイン会場) 30,368 人(全会場) 【達成】 1 回/年</p>

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果／アウトカム] 収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3 か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年 2 ～ 3 回コレクション展開催(展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方なるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫)、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p>
--

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの形成 収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ・コレクションの保存 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な収蔵庫内の点検と清掃を実施し、庫内環境の保全に努め、収蔵庫の状況について現状の課題を市と共有しました。 ・新収蔵品のデータを登録し、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・コレクションの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展合計の目標 28.29 万人に対し、実績は 423,228 人（150%）と、目標を上回りました。 ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今夏に高知県立美術館とアーツ前橋で開催することができました。当館コレクションを展覧会として他館で展示したのは国内では初めてのことであり、当館の魅力を他地域に発信できたことは大きな成果と考えています。 ・そして、コレクション作品画像は、5 月に 1,700 点分がウェブサイトのコレクション検索ページで公開されました。大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の中に、画像未公開作品の撮影・公開準備等を予定しており、6 月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションの形成、保存に関する通常業務 ●コレクションの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展 <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 期【会期：3 月 24 日 -6 月 24 日・80 日間】 同時期に開催する「ヌード展」のテーマと構成により、当館コレクションの魅力を伝える展示を行う。 ・第 2 期【会期：7 月 14 日 -9 月 24 日、10 月 13 日-12 月 16 日・120 日間】 同時期開催の二つの企画展、「モネ それからの 100 年」と版画家「駒井哲郎展」に緩やかに関連させたテーマ立てとセクション構成により、当館コレクションの魅力を伝える展示を行う。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □入場者数 103,500 人（1,294 人/日） □入場者数 145,400 人（1,212 人/日） 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 <ul style="list-style-type: none"> ・10/16 内部検討委員会 ・11/19 収集委員会 ・3/19 前年度目録発行 【未達成】92,173 人（1,152 人/日） 【達成】299,050 人（2,492 人/日）

<p>・第3期【会期：1月4日-3月24日・68日間】</p> <p>同時期開催の「イサム・ノグチと長谷川三郎展」に緩やかに連動したテーマと構成により、当館のコレクションの魅力伝える展示を行う。</p> <p>・コレクションパッケージ展 国内巡回</p> <p>・コレクションの画像と解説をウェブ公開</p>	<p>□入場者数 34,000 人 (508 人/日)</p> <p>■ 1 回/年</p> <p>□10 作品/年</p>	<p>【未達成】 32,005 人 (471 人/日)</p> <p>【達成】 2 回/年</p> <p>・6/23-9/24 横浜美術館コレクション展 @高知県立美術館 10,314 人</p> <p>・7/6-9/3 横浜美術館コレクション展@アーツ前橋 3,089 人</p> <p>【達成】 約 1,700 作品/年</p> <p>・5/1 約 1,700 作品の画像と情報をウェブアップ</p> <p>【追加実績】</p> <p>・Ⅲ期に向けたコレクション撮影・公開準備等</p> <p>6月 Ⅲ期実施事項、予算およびスケジュール検証</p>
--	--	--

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・新たに、第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術情報センターでは、目標人数が前年度から上がったこともあり、「図書館総合展」会期中の11月1日(木)に美術情報センターのみ開室する、市民のアトリエと共同で講座を開催する、NAPの会場の一つとなるなど、新しい試みを行った結果、目標の来場者数に達することができました。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期に間に、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●収集、分類、保管、利用者提</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□利用者数 30,000 人/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 45,151 人/年</p>

- ・視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。
- ・展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、第Ⅰ期の様々なプログラムの試行を踏まえ、第Ⅱ期には横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。
- ・新たに、質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。

[成果についての振り返り]

- ・教育プログラムでは、本年度最大の来場者数を見込んでいたモネ展に合わせて、作家と社会の関係性を考察する専門家の講演、若手の出品作家によるアーティストトーク、出品作家による写真ワークショップ、小学生の親子を対象としたワークショップ、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムなどを提供し、当館の多機能性を活かしながら、様々な来場者に多様な角度から展覧会の理解を深めていただきました。
- ・コレクションに関する鑑賞教育については、エドゥケーター、学芸員、アーティストによるトークでコレクションへの理解を深めていただくと同時に、特別支援学校、中学校の教師など多様な来場者に向けた個別のプログラムを提供しました。ボランティアによる活動については、秋に、みなとみらいホールふれあいコンサート前後の美術館体験ツアーを行い、冬には、ノグチ長谷川展で、日本語と英語のトークを開催しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・ギャラリートーク ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード) 	<p>□2回/展</p> <p>□2回/展</p> <p>□1回/年</p>	<p>【達成】 2～3回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヌード：3/24, 5/19 講演会 ・モネ：7/14, 29 アーティストトーク, 8/26 講演会 ・駒井：10/13 講演会, 11/10 トーク&詩の朗読 ・ノグチ長谷川：1/13 リレートーク, 2/16 講演会, 3/3 スライドレクチャー <p>【達成】 3～4回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヌード：4/13, 5/11, 6/8 ・モネ：7/20, 8/3, 31, 9/15 ・駒井：10/26, 11/17, 23, 12/1 ・ノグチ長谷川：2/1, 15, 3/2, 15 <p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モネ：7/17 公開 <p>【追加実績】 3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートクルーズ：4/21(ヌード), 8/25(モネ) ・K2 インターナショナル鑑賞会：9/5(モネ), 2/20(ノグチ長谷川) ・New Artist Picks 朗読+トーク：2/23
<p>●コレクション展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館職員の専門性を活 	<p>□8回/年</p>	<p>【達成】 21回/年</p>

<p>かした各種トーク</p> <p>・創作体験を取入れた鑑賞プログラム</p> <p>・特別支援学校向けプログラム</p> <p>・学校連携</p> <p>・教師向け鑑賞ガイド (ウェブダウンロード)</p> <p>・アートティチャーズデー</p> <p>●ボランティアによるトーク：個人および外国人向け [再掲：外国人向け]</p>	<p>□1回/年</p> <p>□2回/年</p> <p>□1回/年</p> <p>□3回/年</p> <p>□各々1回以上/年</p>	<p>・ I期：4/13, 27, 5/11, 20, 25, 6/8, 22 ギャラリートーク・アーティストトーク</p> <p>・ II期： 7/21, 27, 8/10, 24, 9/14, 10/26, 11/9, 23, 12/14 ギャラリートーク・アーティストトーク</p> <p>・ III期：1/20, 25, 2/8, 22, 3/8 ギャラリートーク・アーティストトーク</p> <p>【達成】 1回/年</p> <p>・ 6/17, 7/8, 29, 8/5, 12, 19, 22 (子ども探検隊), 9/9, 10/28, 11/4, 3/30 中高生プログラム</p> <p>【達成】 2回/年</p> <p>・ 12/14, 3/3</p> <p>【達成】 1回/年</p> <p>・ 5/26, 6/23, 12/1</p> <p>・ 3/26 ウェブサイト掲載</p> <p>【達成】 3回/年</p> <p>・ 5/19, 9/8, 1/26</p> <p>【追加実績】 2件</p> <p>・ 学校連携 教師向け研修:4/25, 5/9, 7/24-25, 31, 2/20</p> <p>・ 個人向け 子どものアトリエ 美術ってなんじゃもんじゃ:9/2, 9&16</p> <p>【達成】 45回, 7回/年</p> <p>・ 個人向け：2/2-3/23 火, 土に一日3回ノグチ長谷川展「ココが見どころ！」</p> <p>・ 外国人向け：3/2-3/23 火, 土にノグチ長谷川展「ココが見どころ！」</p> <p>【追加実績】 1件</p> <p>・ 団体向け：9/11, 12, 19, 21 ふれあいコンサート前後の美術館体験ツアー開催</p>
--	--	--

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p>
--

<p>・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催 ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携 <p>・新たに、第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・子どものアトリエでは、パーカッションistやヨコハマトリエンナーレ 2014 出品作家による 2 講座を実施し、アーティストとの連携を深めています。なお、来場者数が目標に達しなかった要因としては、フリーゾーンの予約後のキャンセルが多いこと、少子化に伴う学校プログラムの一回あたりの参加人数が減少していることがあげられます。今後、事前申込制の利点である安全性と利便性を担保しつつ、キャンセル率の予測精度をできる限り向上させたいと考えています。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討 	<p>[達成指標]</p> <p>□利用者数 25,000 人/年(再掲：研修)</p> <p>■Ⅲ期の学校のためのプログラムおよび個人講座の再編にむけて以下検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム 学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う ・学校プログラム 90 校(再掲：研修) ・個人講座 アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する ・個人講座 20 講座中、アーティストあるいは外部専門文化機関との連携 2 講座/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】23,736 人/年(再掲：研修 10 回)</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校プログラム 94 校(研修 10 回含) ・個人講座 2 講座 ・8/1 渡辺亮氏ワークショップ[アーティスト連携] ・1/19 八木良太氏ワークショップ[アーティスト連携]

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 ・市民の創作活動を支援する事業の実施

<p>・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・市民のアトリエでは、本年度はすべての企画展と連携し、デッサン、写真、版画、拓本の講座を実施しています。また、写真家が自分以外の写真家の写真集について美術情報センターで語るという、今までにない講座も開催しており、著名アーティストとの連携が定着してきています。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務</p> <p>●著名アーティスト連携による新分野講座</p> <p>●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□利用者数 5,500 人/年</p> <p>□2 講座/年</p> <p>□3 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】6,995 人/年</p> <p>・環境：6/10・7/22&9/9・10/14 みどりアップ（夏の回はモネ展連携）</p> <p>・展覧会連携：5/31 デッサン（ヌード）、7/15 写真（モネ）、12/2, 9&16 版画（駒井）、2/17, 24 拓本（ノグチ長谷川）</p> <p>【達成】2 講座/年</p> <p>・7/15 鈴木理策氏による写真講座（モネ）</p> <p>【再掲】</p> <p>・2/10 長島有里枝氏による写真集の講座</p> <p>【達成】3 回/年</p> <p>・11/19, 21, 27</p>

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <p>・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。</p> <p>・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。</p> <p>・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。</p> <p>・新たに、市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。</p> <p>・ボランティアについては、来年度から鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとを統合し、ボランティアの方がより美術館活動に参画しやすい環境を調べ、一層の活性化を目指します。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●子どものアトリエボランティア</p> <p>●美術情報センターボランティア</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□20 人/年</p> <p>□5 人/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】前年度 3/31-3/31 39 人/年</p> <p>【達成】9/26 11 人/年</p>

●鑑賞ボランティア	□25人/年	【達成】5/1-3/31 54人 ボランティア アトク等
●ビジターサービス ・横浜シティガイド協会等と 連携した活動	□2回/年	【達成】2回/年 ・9/11 おもてなし研修（横浜観光コン ベンションビューロー） ・3/11 みなとみらい歴史研修（横浜み なとみらい21）
・外国人、障がい者、観光案 内へのきめ細やかな対応を 行うビジターサービス・ボ ランティアの推進検討	□10人/年	【達成】前年度3/24-3/31 15人
●「原三溪市民研究会」等と共 同研究会実施	□1回/月	【達成】1回/月 ・5,11月除く毎月 研究会 ・5/13-14 岐阜スタディツアー ・11/10 シンポジウム@三溪園

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・フレンズ参加者数は確実に徐々に増えており、当館の理解者、支援者が広がっています。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●参加者数の拡大</p> <p>●メンバーシップの多様化と プロモーション策検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□180口</p> <p>■3口以上の会員に企画展に関する特典 提供 平成28年4月以降継続</p> <p>プロモーション 1月実施</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】212口</p> <p>【達成】実施</p> <p>・H28.4以降 3口以上の会員に企画展 に関する特典提供継続</p> <p>・12月 次年度プロモーション</p>

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <p>・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。</p> <p>・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。</p> <p>・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献</p>

<p>事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチでは、従来より引き続き、病院、高齢者施設でのアウトリーチを行い、また、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。 ・人材育成については、博物館実習で8人を受入れました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院等 ・福祉施設 ・高齢者施設 <p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習 ・子どものアトリエ インタ ーвенシツプ ・教師のためのワークショップ 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □2回/年 □1回/年 □1回/年 □1回/年 □5名/年 □2回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/18 横浜医療福祉センター港南 ・10/1 横浜市立大学附属病院 ・10/3 神奈川県立こども医療センター <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/7 K2 インターナショナル <p>※11/20 鑑賞とワークショップ@当館</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/11 戸部ハマノ愛生園[横浜国立大学連携] <p>※12/4 事前研修会@当館</p> <p>【追加実績】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/13, 11/2, 12/18HTA 企業, 保育園 <p>【達成】7/23-28 8人</p> <p>【達成】13人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/1-3/31 5人 各種講座補助 ・8/3-8 城西国際大インターン8人[城西国際大学] <p>【達成】2回/年(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエで実施

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <p>●四つの基本方針(*)に従った来館者サービス業務</p> <p>*1)顧客サービス員の質向上</p> <p>2)顧客サービス員およ</p>	<p>【指標】</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施
--	-------------	--

<p>び市民協働の特性を活かし、より多様な来館者へのきめ細やかな対応実現</p> <p>3)多言語で、高齢者等にも見やすいパンフレット等</p> <p>4)グランドギャラリーでの季節感のあるおもてなし、プロモーション</p> <p>●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討</p>	<p><input type="checkbox"/> 展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点 4.00 以上</p> <p><input type="checkbox"/> 展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点 4.30 以上</p> <p><input type="checkbox"/> 政策経営協議会で検討 1回/年</p>	<p>・団体：46 団体に事前レクチャー提供</p> <p>・近隣就業者：</p> <p>・マークイズ 4/10, 5/8, 6/12, 7/10, 8/14, 9/11, 10/9, 11/13, 12/11, 1/8, 2/12, 3/12</p> <p>・MMCC 6/8, 9/14</p> <p>・夜間開館</p> <p>5/11, 6/8, 8/10, 17, 24, 31, 9/14, 15, 21, 22, 11/23, 3/2</p> <p>3) パンフレット等整備</p> <p>・通常業務実施</p> <p>4) 植物、ソファ等設置</p> <p>・11/9-2/21 カフェイルミネーション</p> <p>・12/26-1/7 門松</p> <p>・1/4-19 装花</p> <p>【達成】4.21</p> <p>【達成】4.49</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・大規模改修中のサイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新</p> <p>6月 Ⅲ期実施事項、予算およびスケジュール検討</p>
--	---	---

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●ショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナル商品 ・企画展関連商品コーナー 	<p><input type="checkbox"/> 1商品/年</p> <p><input type="checkbox"/> 1回/企画展</p>	<p>【達成】2商品/年</p> <p>・3月 30周年ワイン、お菓子</p> <p>【達成】1回/企画展</p>
<p>●カフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナルメニュー ・企画展関連メニュー 	<p><input type="checkbox"/> 1商品/年</p> <p><input type="checkbox"/> 1商品/企画展</p>	<p>【達成】1商品/年</p> <p>・1月：1商品</p> <p>【達成】1～2商品/企画展</p> <p>・ヌード：2商品</p> <p>・モネ：2商品</p> <p>・駒井：2商品</p> <p>・ノグチ長谷川：1商品</p>

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大規模改修 ●日々の適正な施設管理 ●災害対応 <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 ●開館30周年事業を検討する。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大規模改修の実施にむけ市と協働 □安全管理事故 0件/年 □1回/年 □2回/年 ■H28の案に基づき以下準備 <ul style="list-style-type: none"> ・実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月 大規模改修実施計画に向けた事業検討を開始 <p>【達成】0件/年</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/8 <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/28, 2/26 <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 確定
---	---	--

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンドレイジング <ul style="list-style-type: none"> ・法人協賛制度支援者拡大 ・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動 ・第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □2社増/年 □10社/年 ■Ⅲ期にむけて以下実施 <ul style="list-style-type: none"> ・H31の30周年に向けた個人向け寄付実施 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】4社増/年（目標7社,実績9社）</p> <p>【達成】10社 /年</p> <p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月 H31の30周年にむけた個人向け寄付にむけて昨年度調査した結果、費用対効果を鑑み、従来の法人向け協賛制度を用いた活動に注力することを決定 <p>【追加実績】3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/20-21 SUV展示会 ・12/7-8 オートカラーウォード ・2/22 野村総研特別鑑賞会
---	--	--

(3) 人材強化

<p>[取組内容] ●学芸員、エデュケーター育成を再構築</p>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団スケジュールに従い実施
----------------------------------	--	---

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●市の政策と事業の相互連携	□政策経営協議会 4回/年	【未達成】3回/年 ・4/24, 7/24, 11/20 ※1/22については市と協議の上中止 ※6/15, 8/28, 9/10, 19, 3/1, 19 外部評価委員の対応
●進捗状況報告	□1回/年	【達成】1回/年 ・11/20 半期振り返り報告
●外部意見の取入れ ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	□1回/年	【達成】2回/年 ・12/24, 1/7 教育普及事業会議 勉強会
●年報発行		【達成】1回/年 ・3月発行

8 人員配置

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	□計 46人 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 2人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人	□計 52人 ・館長 1人 ・副館長 2人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 1人 ・チームリーダー 8人 ・担当リーダー・職員 36人

9 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●保険及び損害賠償の取扱い	■業務の基準に基づいた適正な取扱い	【達成】実施
●法令の遵守と個人情報保護	■コンプライアンス窓口を設置し対応	【達成】実施 ・財団にて設置済
●情報公開への積極的取組	□個人情報保護研修 1回/年	【達成】1回/年 ・2/20 全職員実施
●市及び関係機関等との連絡調整	■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	【達成】実施
●その他	■横浜市や関連機関との連絡緊密化	【達成】実施
1) 許認可及び届出等	■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	【達成】実施
2) 施設の目的外使用		
3) 人権の尊重		

4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応		
---	--	--

平成30年度「横浜美術館」収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	759,971,000		759,971,000	759,971,000	0	
利用料金収入	68,851,000		68,851,000	81,566,004	△ 12,715,004	コレクション展観覧料、駐車場収入を含む
自主事業収入	276,402,000		276,402,000	365,578,979	△ 89,176,979	
雑入	80,814,000	0	80,814,000	74,672,106	6,141,894	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	972,000		972,000	880,032	91,968	
駐車場利用料金収入	0	0	0	0	0	
その他(店舗、喫茶、寄付金)	79,842,000		79,842,000	73,792,074	6,049,926	ショップ収入他
収入合計	1,186,038,000	0	1,186,038,000	1,281,788,089	△ 95,750,089	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	366,143,000	0	366,143,000	361,008,264	5,134,736	
給与・賃金	299,675,000		299,675,000	297,776,623	1,898,377	
社会保険料	44,063,000		44,063,000	43,240,689	822,311	
通勤手当	6,623,000		6,623,000	7,006,498	△ 383,498	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	
退職給付引当金繰入額	15,782,000		15,782,000	12,984,454	2,797,546	
事務費	9,655,000	0	9,655,000	11,979,020	△ 2,324,020	
旅費	124,000		124,000	446,775	△ 322,775	
消耗品費	851,000		851,000	1,022,316	△ 171,316	
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	658,000		658,000	619,449	38,551	
通信費	1,944,000		1,944,000	1,662,011	281,989	
使用料及び賃借料	1,570,000	0	1,570,000	1,650,896	△ 80,896	
横浜市への支払分	161,000		161,000	160,704	296	
その他	1,409,000		1,409,000	1,490,192	△ 81,192	
備品購入費	0		0	2,083,536	△ 2,083,536	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	251,000		251,000	201,455	49,545	
職員等研修費	510,000		510,000	407,494	102,506	
振込手数料	1,000,000		1,000,000	1,157,912	△ 157,912	
リース料	0		0	0	0	
手数料	1,700,000		1,700,000	1,660,176	39,824	
地域協力費	1,047,000		1,047,000	1,067,000	△ 20,000	
事業費	419,454,000	0	419,454,000	452,414,630	△ 32,960,630	
自主事業費	419,454,000		419,454,000	452,414,630	△ 32,960,630	コレクション展含む
管理費	211,676,000	0	211,676,000	211,783,798	△ 107,798	
光熱水費	72,739,000	0	72,739,000	65,225,069	7,513,931	
電気料金	69,109,000		69,109,000	62,153,519	6,955,481	
ガス料金	30,000		30,000	41,100	△ 11,100	
水道料金	3,600,000		3,600,000	3,030,450	569,550	
清掃費	27,100,000		27,100,000	28,405,811	△ 1,305,811	
修繕費	6,000,000		6,000,000	12,811,832	△ 6,811,832	
機械警備費	6,334,000		6,334,000	6,333,744	256	
設備保全費	99,503,000	0	99,503,000	99,007,342	495,658	
空調衛生設備保守	10,714,000		10,714,000	6,425,200	4,288,800	
消防設備保守	2,042,000		2,042,000	2,041,200	800	
電気設備保守	978,000		978,000	977,400	600	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	85,769,000		85,769,000	89,563,542	△ 3,794,542	
共益費	0		0	0	0	
公租公課	29,978,000	0	29,978,000	30,488,105	△ 510,105	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	29,948,000		29,948,000	30,422,500	△ 474,500	
印紙税	30,000		30,000	51,000	△ 21,000	
その他(法人税/固定資産税)	0		0	14,605	△ 14,605	
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	149,132,000	0	149,132,000	148,626,527	505,473	
本部分	68,300,000		68,300,000	68,300,000	0	
当施設分	80,832,000		80,832,000	80,326,527	505,473	ショップ、カフェ、券売システム、ネットワーク保守、館内貸出経費他
ニーズ対応費	0		0	0	0	
支出合計	1,186,038,000	0	1,186,038,000	1,216,300,344	△ 30,262,344	
差引	0	0	0	65,487,745	△ 65,487,745	